

「松平忠固公と明倫会」

～忠固公を真ん中に置いたドキュメント(大河ドラマ)を目指して～

明倫会会長 布施修一郎(6 組)

明倫会は、上田松平藩士の子孫と松平藩に関心のある有志からなる任意団体である。

戦国時代に活躍した真田一族の存在は著名であるが、幕末・維新の時代に民の為、国の為に奔走した上田松平藩の六代藩主忠固公の存在は上田でも殆ど知られておらず、かつ歴史に埋もれて仕舞っているが、少しでも多くの人々に知って貰いたいと思う。

明倫会としては老中松平忠固公の功績に対して提示したい事柄は次の 3 点である。

- 1、忠固公を真ん中に置いたドキュメントの制作 できれば大河ドラマ
- 2、忠固公の三つの業績の認知
- 3、広く知名度を上げたい

1、忠固公を真ん中に置いたドキュメントの制作

講演で用いた添付図(次ページ)に示すように真ん中に忠固公を置き、関連した人々・事項を配置してみると、人物に関しては現在顕彰が続けられている上田藩士、並びに子孫の赤松小三郎、山極勝三郎、小河繁次郎、他の人物や歴史的事項が挙げられ、特に、生糸や貿易に関連した人物、項目が目立つ。

2、忠固公の三つの業績

- (1) 日本を開国させた。
- (2) 日米修好通商条約を日本有利にしていた。
- (3) 生糸貿易を始めて上田地域・日本全体の経済発展に貢献した。

教科書にはこれら三点に関する掲載は見当たらない。開国と日米修好通商条約については、歴史家の手による学会での定説の翻りに期待したい。

生糸貿易については、堂々と胸を張って「忠固公が先駆者である」と主張して行きたい。

3、広く知名度を上げたい

これが一番の問題。特に地元の人々の認知度、理解度を高めたい。

大河ドラマ「真田丸」の放映で観光地的知名度が高まった上田ではあるが 10 年近く経ったことにより、その色も褪せ始めている気がする。真田に関しては、戦国時代の話であり第二次世界大戦前の上田の賑わいとは全く関係がない。真田、真田で続行して旗を振るのはそれはそれで良いと思うが、明治から戦前までの日本各地の繁栄は生糸に関連した産業によるものであることは歴史が示すところであり、特に「その火付け役は日本で初めて生糸貿易を開始した松平忠固公である」ことが明らかにされている。

生糸貿易が全国的賑わいを広めた中で、特に上田での生糸貿易事業は全国で群を抜きん出ており、養蚕生糸関連産業、文化、商業、金融、交通、教育の面で豊かな街であった。

明治から第二次世界大戦前まで
【矢島万記子さん（故矢島好高君(7組)の妹さん）作成】